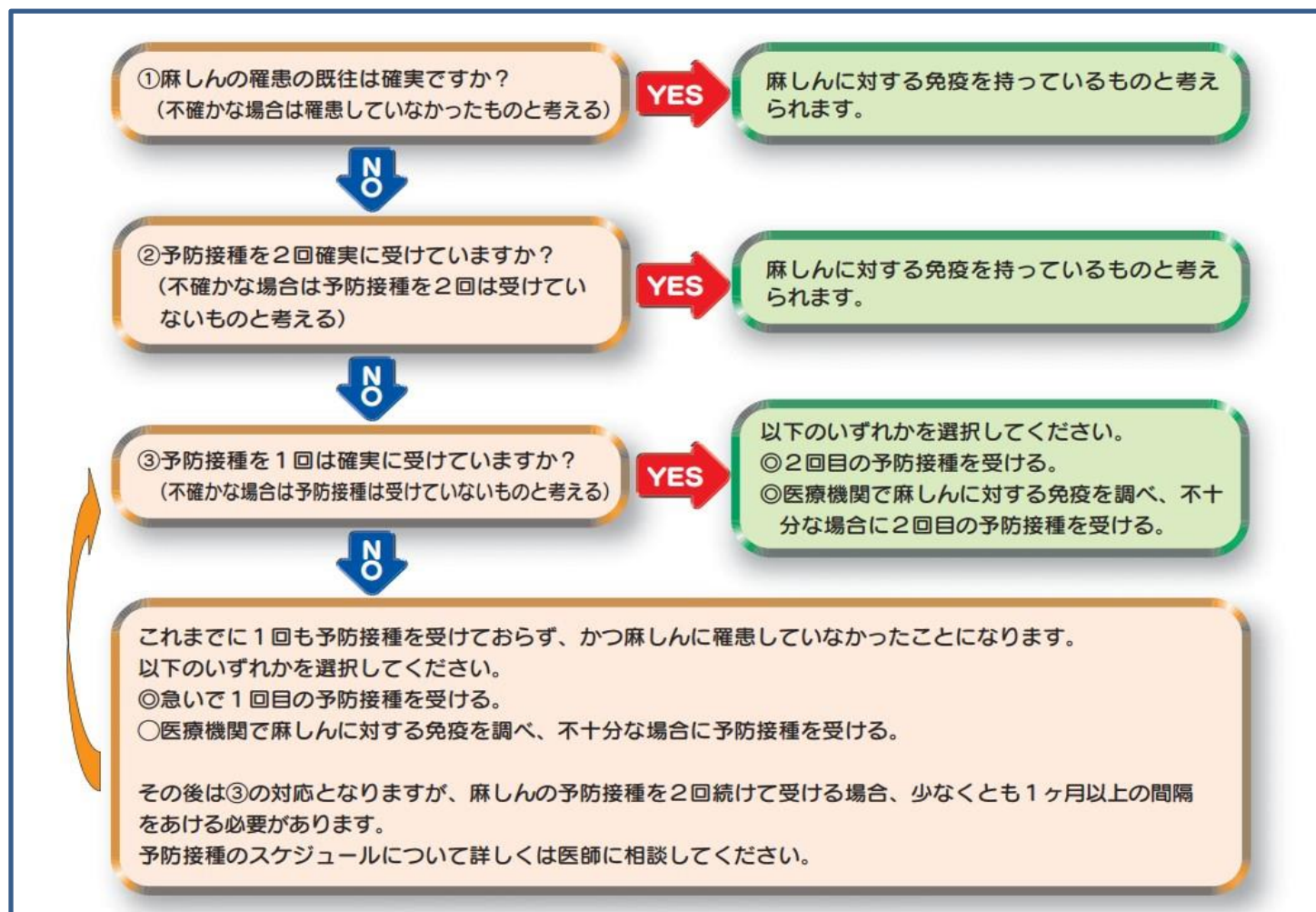


麻しん（はしか）対策について

沖縄県で麻しん患者が発生し流行しているとの報告があり、今後広範な地域において麻しん患者が発生する可能性があると考えられています。そこで、本年 4 月 11 日付で、厚生労働省より「麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起について」の文書が出されました。

本学の学生も教職員も、以下のフローチャートに従い、対応をお願いいたします。



「学校における麻しん対策ガイドライン」第二版 より

自分の記憶に頼らず、母子健康手帳等で調べるなど、確実な情報に基づいて判断してください。

* ① 麻しんの罹患の既往は確実ですか？の「確実」とは、

- 1) 麻しんに罹った記録が残っている
- 2) 麻しんの免疫があるかどうかを血液検査で調べ、陽性であることが確認されている の2つです。

(注) 世代別にみると、それ以外の年齢の者と比較して 20～40 代は麻しんに罹る可能性が高い。

麻しん・風しんワクチン（MR ワクチン）の 1 回接種では効果が確実ではなかったため、2006 年から 2 回接種（第 1 期・第 2 期）が始まり、2008 年から 5 年間、第 3 期（中学 1 年生相当世代）、第 4 期（高校 3 年生相当世代）にもワクチン接種の対象が拡大されているが、それらの接種を受けたかどうかの確認が必要である。